

平成26年度2学期センターマネジメント

学校教育目標	生活のリズム(望ましい睡眠・食事のあり方、メディアとのつきあい方)、生活習慣(身だしなみ、清潔感、整理整頓)を定着させ、自主・自立の精神を養い、共生の精神を尊重する人間関係づくりを構築し、学力向上をめざす。									
重点努力目標	(1)生活リズムや基本的生活習慣を身につけさせ、学習規律や学習態度の確立、学習習慣を定着させることによって、基礎学力の向上をめざす。 (2)人間関係を育む学級経営、学習指導、学校行事、生徒会行事、部活動を通して、「学校が楽しくて満足している」と実感できる、共に生きる集団づくりをめざす。 (3)生徒一人ひとりが、価値ある存在として実感することができ、自分の生き方に希望や誇りをもって、「社会とどう向き合い、社会とどう関わっていくか」を形成し、自己実現を図っていくことのできる学校づくりをめざす。									
分掌重点目標	①本校が岩美町の「人づくり」「地域づくり」の一翼を担い、特に教育面、文化面においてセンター的な役割を果たす。 ②そのために、地域住民や地域機関との連携を強化しながら、地域住民の一員としての自覚が高まる生徒の育成を目指す。 ③岩美町が推進するスクラム教育の一翼を担う。									
目指す学校・生徒の姿 Plan	分野別目標	1学期成果と課題・提言	2学期の常時活動 Do	9 月	10 月	11 月	12 月	到達目標	評価基準 (Check)	成果と課題・提言
め来②に① るに岩誇 教夢岩 師や町美 希内自 望外信 をのを も人持 つ的つ つ育生 生っ徒 源た 徒地 を域 の有を 効成愛 成活し に用、 努郷 し、土 、 将	誇踐地 りす域 とるの 自こ人 信と材 ををを 持通活 つし用 たてし 生、た 徒地教 を域育 育を活 成愛動 すしを る、企 郷画 土・に実	<成果と課題> 1学期は実施に向けての計画を検討した。今後は、岩美町特有の業種を開拓できるように計画していく ワクワク岩美では新規受け入れの事業所が開拓できた。 修学旅行では地元の人脈のつながりで本庁出身の方が開業された訪問先の開拓ができた。 <提言> 岩美町特有の業種を開拓していくことが必要 次年度のプラン作成の段階から、地元とのつながりのある事業所、大学などの人脈を確保していく必要がある。 その年に使わなくても、人材バンク的にいくつかストックしておく、担当学年が楽にな	②1年「ふるさと先生とともに」 事業所との打ち合わせ事前学習		「ふるさと先生とともに」実施	「ふるさと先生とともに」のC&Aを行い次年度への引き継ぎ資料作成	「ふるさと先生とともに」のC&Aを行い次年度への引き継ぎ資料作成	地域人材の発掘に努め、協力企業への協力を要請し、参加事業所の増加をはかり、地域の人材を活用できる。	地域人材、地域企業の協力を得ることができる。	
			②2年「修学旅行に向けて」 学年として3日間の日程等を検討	修学旅行入札文書を各旅行代理店に送付 学年としての三日間の日程等の案を作成	・修学旅行実行委員の募集 ・入札→平成27年度修学旅行担当旅行代理店決定	第一回修学旅行実行委員会の実施				
			③3年休日補充学習 実施計画についての検討を行う。	地域人材についての情報	日程および協力者の確認	生徒および保護者へ実施計画等について周知	参加生徒の	学校休業日特別補充学習の実施(毎週土曜日の午前中)		
の② 方来校 々々か いた 信だ 頼く さこ れと るに 学よ 校つ をて 目保 指護 す者 教、 師地 域	高保 揚護 に者 つ、 な地 が域 の教 方育 々々 活の 動学 の校 創運 造営 を参 行画 う意 識の	<成果と課題> あいさつ見守りは平均5名以上は達成できた。(各学年とも10名程度参加があった)学年通信等での呼びかけも効果的であったように思う。 見守りDAYは10名以上の参加だった。参加者が固定化されているが、部活のときには普段見れないからと期待して参加された方もあった。 <提言> 地元の学校という理解を広げるためにも、見守りDAYの参加条件等、もう少し丁寧に広報する必要がある。それによって参観者は増えると考ええる。	保護者・地域の方々の学校運営への参画意識の高揚 ①PTA関係行事(運動会、文化祭) ②若鷺あいさつ見守り隊 ③若鷺見守りDAY	①運動会(9/6)、文化祭(11/1) 参加への呼びかけ(学年・学級通信等)→参加率集約→振り返り				・「PTA関係行事」「若鷺校内見守り隊」「若鷺あいさつ見守り隊」等、保護者・地域の方々を巻き込んだ活動が定着する。	・PTA関係行事(運動会、文化祭)への参加率が50%以上 ・若鷺見守りDAY参加者数が平均10人以上 ・若鷺あいさつ見守り隊の参加者数が平均5人以上	
教れてに②献役① 師る、参地でに人 生地画域き立に 徒域こ行るち喜 をかと事生、ば 支らにに徒地れ 援期よ積域、 す待つ極に人 るさ的貢の	把域的関区町 握のな係自教 す二連諸治育 る！携機会委 。ズに関、員 を努と公会 的めの民、 確、日館各 に地常等地	<成果と課題> 肯定的評価は86%と多くの生徒が参加している。超区別生徒会を各担当で実施し生徒への呼びかけができた。 <提言> 呼びかけの継続と学校と公民館の連絡をより密にすることも必要。	①町区別生徒会を活用しての地域行事への積極的参加の促し ②地域と連携した校外行事	①センター委員会からの情報提供→町区別生徒会の随時開催(行事事前)、教職員の参加、各地区からの情報の集約、生徒への広報			第2回町公民館長・主事会出席→生徒の地域行事への参加状況、意見の集約	・地域の行事やボランティア活動への教師・生徒の参加率実績が昨年度を上回る。	・生徒質問紙調査項目18「地域の行事や活動に積極的に参加している」の肯定的評価が80%以上達成	
				②地域と連携した校外行事の実施						